

国語

聞きのがしたことを相手に確かめるとき

〇〇さんが ア ことを、もう一度 イ いいですか。

4 ア 申した

3 ア おっしゃった

2 ア 申した

1 ア おっしゃった

イ うかがって

イ お聞きになつて

イ お聞きになつて

イ うかがって

聞き取りを続けたのですが、ア いがいに雑草が生えてきて、とてもこまりました。

うきかんは7月1日から15日までです。

(1) 部ア、ウを漢字で書いてねいに書きましよう。

〇漢字や敬語を適切に使うことに苦手さがある

漢字や敬語の知識を問う問題の正答率が、県や国と比較して低かったです。「意外」を「以外」と書いたり、「期間」を「機関」としたりと、同音異義語に課題があると考えられます。敬語については、知識として敬語を知ってはいても、場面に応じた尊敬語と謙譲語の使い分けが難しかったようです。立場や関係を考えながら適切な敬語を選んで使うことに苦手さが感じられました。

【学校では】

日常的に、既に学習している漢字をできるだけ使おうとする意識をもたせます。同時に、漢字のもつ意味を考えて使う習慣が身につくように、漢

字辞典を使って漢字の読みや意味を調べる活動を多く取り入れたり、適宜同音異義語を指摘したりする指導をしています。敬語については、日常生活の実際の場面を通して、尊敬語と謙譲語について理解できるように指導をしています。

【家庭では】

漢字は、覚えた数日後に再び覚えなおすことで着実に覚えることができます。家庭学習では新出漢字のみではなく、これまでに学習した漢字を再度練習すると効果的です。漢字と敬語はどちらも日常生活の中で触れることが多いと思います。普段から、自分の使っている漢字や敬語が適切なのか振り返って考える機会を作ること、漢字や敬語の力を生活の中で伸ばすことができます。

【川村さんの文章】

学校の田んぼで取り組んだ米作りの問題点とその解決方法

今年の米作りでは、たくさんのお米をしょうかくすることができました。しょうかくまでに、いくつかの問題がありました。その中でも特に伝えたい問題点とその解決方法について説明します。

5月下旬に学校の田んぼになえを植えました。6月の終わりまで、週に1回、グループの3人で雑草取りを続けたのですが、ア いがいに雑草が生えてきて、とてもこまりました。そこで、雑草の量について、農家の田んぼとイくらべてみました。ウ きかんは7月1日から15日までです。

右のグラフは、その結果をもとにして作ったものです。

農家の田んぼと学校の田んぼの雑草の量

10日あたりの雑草の量(刈り取ったときのバケツに入れ、その個数を雑草の量とする)

このようなことに取り組み、9月の下旬にお米をしょうかくすることができました。

二 川村さんは、選んだカードをもとに、次の「川村さんの文章」の問題点とその解決方法について書くようにしています。あなたが川村さんなら、どのように書きますか。あなただけで書きますように。

【カード①】

6月24日

- ・思ったより学校の田んぼに雑草が生えてきた。
- ・このまま雑草が増えたら米のしょうかくにえいさうするのではないかと心配だ。

【カード②】

6月30日

- ・雑草取りをしているが、農家の田んぼには見られないほど、雑草の量が増えてきた。
- ・どれくらい増えているのか雑草の量を調べる。
- ・調査方法 週に1回、農家の田んぼと学校の田んぼの雑草を取って、量をくらべる。
- ・調査さん 7月1日～15日

【カード③】

7月19日

- ・学校の田んぼでは、雑草の量に対して雑草取りが足りていないと考えられる。
- ・雑草の量と米のしょうかくの関係について農家の石山さんに話を聞きに行く。

【カード④】

7月20日

【農家の石山さんのお話】

- ・雑草に栄養をとられると、米のしょうかくが減る。
- ・雑草が多いと、いねが腐敗になることがある。
- ・農家は、さまざまな方法で雑草が生えないようにしている。

【カード⑤】

7月21日

【学校でできる解決方法】

- ・雑草取りの回数を増やす。
- ・雑草取りの人数を増やす。

〇自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫して書くことに苦手さがある

米作りについての文章を見て答える問題です。出題された内容に沿ってグラフやカードの情報を組み合わせ、答えの文章を作ることが難しかったかと思います。目的や意図に応じて、必要な情報を抜き出し、自分の考えが伝わるように書くことに課題が見られました。

【学校では】

「書くこと」の学習において、書く目的や意図に沿った構成・展開になっているか、互いに文章を読み合って検討する活動を行います。この活動を通して、自分の考えを伝えるためには、文章のどこを詳しく書く必要があるか判断する力を養います。また、グラフや図表から必要な情報を読み取ったり、複数の情報をひとつの文

章にまとめたりする言語活動を充実させていきます。

構成の検討や情報の整理は、ICT 機器を活用することで編集や視覚的に捉えることがしやすくなります。国語科の授業外でも、スピーチの原稿を ICT 機器で作成したり、複数の情報の分類や取捨選択に ICT 機器を活用したりして、様々な分野で書く力を伸ばしていきます。

【家庭では】

書くことは、繰り返し学習することで力が付きます。読んだ本の簡単な感想を書いてみたり、日記や詩などの短い文を書いたりすることを繰り返すことで、書く力は伸びていきます。書くことが難しければ、会話形式でも大丈夫です。子どもが考えて話すことに対し、「これはどうなの？それはどうなの？」と質問を繰り返して深めていきます。話したいことをまとめる練習を繰り返し行うことで、主語と述語が一体化し、整った文章を書く力も伸びていきます。

算数

「割合」の学習について

割合が30%になるものを選ぶ問題で、「100人をもとにした30人、10人をもとにした3人」と回答できた児童が半数近くいました。以前の調査に比べ、百分率で表された割合について、理解できている児童が多くなりました。しかし、半数の児童は、割合に対しての理解が十分とは言えない状態です。30%という割合を、「10人のうち3人」という理解だけでなく、基準量が100人になったときなど、別の数字になったときにも、同じようにこの割合の人数が理解できるようになるためには、数字だけの理解にならないようにしていく必要があると考えます。

【学校では】

割合の学習では、数字での計算だけにならないように、基準量と比較量などの数量関係を、言葉、図、式で表し、図で表した関係を式にしたり、式に表した関係を図で表したり、図や式の意味を言葉で説明したり、多方面からの理解ができるようにしていきたいと思います。

【家庭では】

普段の買い物などで、〇%offや〇割引のような事柄の中で、「どのくらいになるのかな？」と話題にしていただけると、割合とその量についての関心と理解につながっていくのではないかと思います。

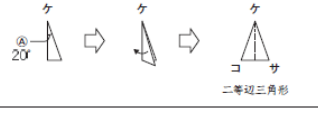
「図形」の学習について

④ 点キを通して、上の直線に垂直な直線キクで切ると、四角形オカクキができました。



上のつくり方でできた四角形オカクキは、どのような四角形ですか。その四角形の名前を書きましょう。

ゆいな 私は、④の角の大きさを 20° にしました。切って開いた三角形ケコサは、二等辺三角形になりました。



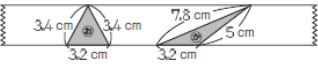
ケコサは、二等辺三角形

わたる 私は、切って開いた三角形を正三角形にするために、④の角の大きさをゆいさんとちがう大きさにして切りました。

切って開いた三角形を正三角形にするには、④の角の大きさを何度にすればよいですか。

答えを書きましょう。

(4) えいたさんたちは、テープを直線で切って、下のような⑤と⑥の2つの三角形をつくります。



上の⑤と⑥の三角形の面積について、どのようなことがわかりますか。

下の 1 から 4 までの中から 1 つ選んで、その番号を書きましょう。

また、その番号を選んだわけを、言葉や数を使って書きましょう。

- ⑤の面積のほうが大きい。
- ⑥の面積のほうが大きい。
- ⑤と⑥の面積は等しい。
- ⑤と⑥の面積は、このままでは比べることができない。

左の問題のように、四角形オカクキの名前を問う問題では、図から四角形オカクキが正方形であることが、見た目でも想像することができます。しかし、次の④の角度を求める問題では、「切って開いた三角形を正三角形にするために、④の角の大きさを何度にすればよいですか。」と聞いているので、図にある三角形ケコサではなく、正三角形の図形を想像して角度を考えていくことが必要となります。この問題への苦手さがあつたことから、図形を想像して問題を解決する力が十分ではなかったことが考えられます。

また、三角形の面積については、「底辺」と「高さ」の2つの要素をふまえて、記述で回答する問題への苦手さもありました。デジタル教科書を使って教科書の絵や写真、動画を見ながらの授業が多くなってきていて、実際に自分で図形をかいたり、作ったりという操作活動が減ってきています。このことから、図形の構成要素やそれぞれの要素の関係に着目して大きさや形を捉えていくことに苦手があると考えられます。

【学校では】

今後も図形の学習では、具体物を使って問題に取り組む場を積極的に取り入れていきます。実際にテープを折ったり、折り紙を使って図形を作ったりするような活動を通して、図形を教科書の図や言葉で理解するだけでなく、図形の性質を経験として理解できるよう、体験的な授業づくりを行います。

また目的の図形をつくるために、どのような操作をすればよいか、図形の意味や性質を基に、見通しを立てて考え、自分の考えをもったうえで実際に図形をつくって確かめることを意識した授業をしていきたいと思います。

【家庭では】

家庭学習で図形の問題に取り組む際に、実際にその図形をかきながら問題に取り組んだり、紙に書いて切り取って考えたりして、具体的な図形が思い描けるようにしていただけるとよいと思います。

児童質問紙

○学習の中でPC・タブレットなどのICT機器を使うことは勉強の役に立つと感じている児童が多い

「学習の中でPC・タブレットなどのICT機器を使うのは勉強の役に立つ」という質問に対し、「役に立つ」「どちらかといえば役に立つ」と回答している児童の割合が90%以上という結果でした。また、80%以上の児童が学校の授業以外に、勉強のためにタブレットを使用しているとも分かりました。日常の中で、インターネットを活用して調べ学習をしたり、授業で学んだことをプレゼンテーションにしたりするなど、タブレットのメリットを生かして文房具として使用している児童が多いことが一因だと考えます。しかし、インターネットで何でも簡単に知ることができるという点においては、便利ではありますが、調べたことをまとめる深める活動や実際に見るなどの経験から児童自身が答えを発見し、想像する活動も大切な学習だと考えます。そこで、今後は、タブレットと紙の両方で学ぶメリットを生かした学習を行っていく必要があると感じています。

【紙学習のメリット・デメリット】

- 解く過程が残り、間違いに気づきやすい
- 学びの全体像がつかみやすい
- 手を動かして書くことで、学習内容をインプットしやすい
- ▲音声や動画でないと理解できないものがある
- ▲学びに取り組むハードルが高い

【タブレット学習のメリット・デメリット】

- 動画や音声で理解が深まりやすい
- 学びのきっかけづくりになる
- 児童の学習状況に応じて学習できる
- ▲勉強したつもりになってしまい、知識が定着していないことがある
- ▲自分に必要な学習を見つける力がつきにくい

【タブレットと紙の両方で学ぶメリットを生かした学習】

タブレット学習で知りたいことを効率的に調べ、紙学習で学習の定着や記録、進捗の確認を行う。

○家で自分で計画を立てて勉強している児童がやや少ない

「計画を立てて勉強している」「計画をときどき立てて勉強している」と回答している児童の割合が72.9%という結果でした。岐阜県の割合75.9%と比べると、やや低いことが分かります。

今年度より、家庭学習計画表を用いた活動を取り入れています。学力状況調査までの取り組み期間が短く、児童たちに計画を立てる習慣が十分に身につけていない状況であったことが要因として考えられます。また、計算ドリル・漢字ドリルなど、学校側から出される宿題に取り組む習慣が身につけており、自分で学びたい教科や内容を考えて勉強する場が少なかったことも要因だと考えられます。

【学校では】

学校教育目標「夢に向かってはばたく子」を育成するために、「よりよい問題解決方法を自ら選択して取り組める力」を身につけさせたいと考えています。そのために、自分は何に興味があるのか、何を学ぶべきなのかを考え、取り組んでいく必要があると考えます。自身の学習状況の確認として計画をし、学びの見通しをもって取り組むという経験を積み重ねることで、自分に必要な力や伸ばしたい力を見つけることができると考えます。また、タブレットと紙の学習のよさを生かした学び方、家庭学習計画表や学習内容について、ノート展や学級で広め評価することで、さらなる自主学習への意欲に繋げていきたいと考えております。

【ご家庭では】

お子様の家庭学習の進み具合を把握し、自ら計画しているなど、頑張っている点をほめ、計画が立てられないなど困っている点があれば一緒に考えていただく時間を作っていただけるとありがたいです。また、お子様の「将来の夢・今後やってみたいこと・得意なこと・好きな教科・自信のない教科」などについて話す場を設けていただき、お子様が自分と向き合い、必要な学びは何かを考えるきっかけづくりになればと思います。他にも、地域の行事や市主催等の体験学習に参加するなど、様々な経験をするのも有効だと考えます。知らない世界に飛び込むことで新しい世界・自分に気付くことができることもあります。無限の可能性を秘めているお子様の力を引き出すチャンスになるかもしれません。

○学習内容を見直し、次の学習につなげて勉強している児童が少ない

「学習した内容について、分かった点やよく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか」という質問に対し、「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と回答している児童の割合が72%という結果でした。岐阜県の割合77.6%と比べると、やや低いことが分かります。自分が学んだことの見直しや学びの積み重ねが重要であることを体感していない児童が多いことが要因ではないかと考えられます。

【学校では】

今後も、授業の中で自分が学んだことを振り返る場を積極的に取り入れていきます。授業を通して見つけた自分の課題を家庭学習として取り組み、学校と家庭の学びがつながるように指導を継続していきたいと考えています。

【ご家庭では】

今年度から行っているテスト見直し表を活用し、学習内容の定着が定着しているかと一緒に見届けていただければいいと思います。テスト直しの方法として、問題文を音読することをおすすめします。問題を読んでいたが、勘違いしていたなど、何が原因で解答を間違えていたのかをお子様自身に気付かせることが大切だと考えます。また、自分の苦手とする単元の確認や復習、また、できている問題について、どのように問題を解いたのか、そう答えた根拠は何かを確認する学び方ができます。

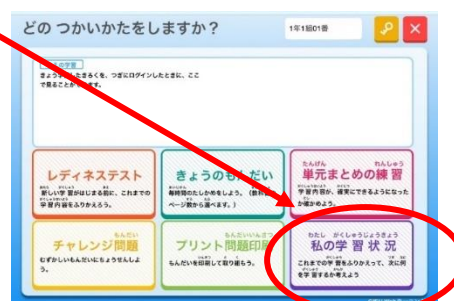
家庭学習においては、本校で活用している「岐阜ウェブラーニング」を活用ください。お子様の学習状況の把握ができます。

＜岐阜ウェブラーニング（私の学習状況）の活用の仕方＞

- ① 岐阜ウェブラーニングにログイン後、
「私の学習状況」をクリックする。

URL

<https://manabi.gifu-net.ed.jp/>



- ② お子様の学年をクリックしていただくと、「単元一覧表と学習状況」が表示されます。赤い枠の部分を押していただくと、選択した単元の学習状況について、詳細が表示されます。

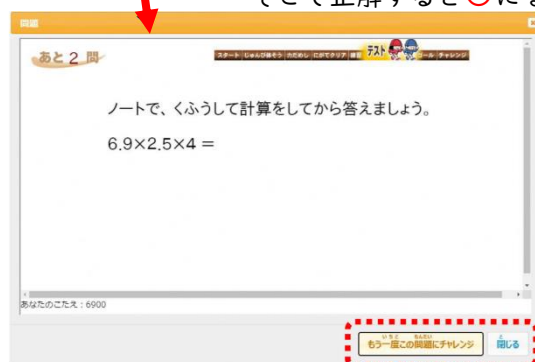
選択

表示される記号

	全ての問題を解答したことがあり、各問題の最終解答が正答の場合
	全ての問題を解答したことがあり、最終解答の正答率が60%未満 または、最新の学習回数で、同じ誤答パターン の誤答が3回以上あった場合
	最終解答において、正答できなかった問題がある場合



✕をクリックすると、その問題が表示されて、
回答できます。
そこで正解すると○になります。



選択した問題の内容がプレビューされます。
(手書きしたメモの内容も表示されます)

この問題をもう一度解答する場合は、

もう一度この問題にチャレンジ ボタンを

クリックします。

表示を閉じる場合は、

と閉じる ボタンをクリックします。

〈引用〉NEW！GIFU ウェブラーニング活用マニュアル 岐阜県教育委員会 学校支援課（令和４年度）
P.7、16、17